

東宝

黒澤明監督作品

これぞ日本映画の旗/世界をゆるがせ映画史に驚異の文字を刻みこんだ輝ける黒澤巨篇!

七人の侍

堂々3時間30分■完全オリジナル版 4チャンネルステレオ音響

三船敏郎/志村 喬/木村 功/宮口精二/稲葉義男/千秋 実/加東大介
島崎雪子/津島恵子/藤原釜足/土屋嘉男/高堂国典/渡辺 篤/上田吉二
郎/小川虎之助/上山草人/左 卜全/山形 勲/多々良 純/東野英治郎
脚本■黒澤 明/橋本 忍/小国英雄/製作■本木荘二郎/撮影■中井朝一
美術■松山 崇/録音■矢野口文雄/照明■森 弘充 音楽■早坂文雄
時代考証■江崎孝坪/サウンドトラック盤・東宝レコード/製作・配給■東宝株式会社

黒澤明監督作品

東宝

製作・配給
東宝株式会社



侍の七人

●かいせつ●

「風と共に去りぬ」と並んで、そのスケールと面白さにおいて全世界が映画史上最高の傑作と認め、荒野の七人をはじめ西部劇の歴史をも変えたこの「七人の侍」は、黒澤明監督が「生きる」に続き、一年半の日数をかけて昭和29年に発表した作品です。

封切当時は3時間27分の長編でしたが、その年の秋、ベニス映画祭出品のため監督自身の手で2時間44分に編集、見事ベニス映画祭銀獅子賞を獲得しています。

今回「生きる」にはじまった「東宝名作シリーズ」の第三弾として、この作品に相応しい大スクリーン劇場で上映されるに当っては、20年間殆んど上映されていない3時間27分の完全オリジナル版のニュープリントを使用、音は4チャンネルステレオ音響に製作し直されました。

●ものがたり●

時は戦国、毎年、麦の刈入れが終る頃、野武士がやって来る。襲われる村人は恐怖におののいた。襲われる闘つても十に一つの勝目もない、負ければ村中皆殺しだ。麦を出しても女を見れば黙って帰る野武士では

ない。村を守る道は一つ、侍を備うことだ。長老儀作の決断によって万造、茂助、与平、利吉が侍探しに出発した。

智勇を備えた歴戦の古豪勘兵衛の協力によって、五郎兵衛、久蔵、平八、七郎次、勝四郎、菊千代が選ばれたが、菊千代は家族を野武士に皆殺しにされた百姓の孤児で野性そのまゝの男である。

村人は侍に不安を感じていたが、菊千代の行動によってだんだん理解が生れていった。七人の侍によって村の防衛体勢はと、のえられ戦斗訓練が始った。やがて刈入れが終ると野武士の襲撃が始った。先ず物見の三人を久蔵、菊千代が倒した。敵は四十数騎、少しでも減らすべく百姓利吉の案内で久蔵、菊千代、平八が夜討の案内した。火をかけた山塞で利吉は去年野武士に奪われた恋愛女房に会った。彼女は利吉の顔を見ると狂ったような泣声を上げると燃える山塞に身を投げた。この夜敵十人を斬ったが、利吉を敵の矢から守った平八は種ヶ島

に倒れた。夜が明けると野武士は二度、三度と村を襲った、侍を中心に百姓は鎌や丸太を持って村を死守した。昼も

夜も雨の日も闘いが続いた。

美しい村の娘志乃は男装をさせられていたが、二人の間には恋が芽生えた。武士と百姓の娘、二人の間には越えられぬ階級の溝があったが、志乃にはそれを忘れさず若さがあつた。決戦の前夜、志乃は勝四郎を納屋に誘い二人の体はもつれ合つて薬の中へ倒れた……

翌朝、十三騎に減つた野武士の団が雨の中を村にだれ込んだ。斬り込んだ侍達と百姓達は死物狂いで闘った。久蔵、五郎兵衛が倒れた。怒りに燃えた菊千代が最後の一人を屋根に追いつめたが、敵の弾をうけながら差しちがえて討死した。

野武士は全滅した、しかし百姓も数人倒れ七人の侍の内四人が死んだ。新しい四つの土饅頭の前に勘兵衛、七郎次、勝四郎が静かに立っている。六月の爽やかな風が吹いている中で田植が始った。苦悩の底から沸き上るような、不思議に明るい田植唄が聞えて来る。

「勝つたのはあの百姓達だ、僕達ではない、百姓は土と共に何時までも生きる」
田の面をみながら勘兵衛がつぶやいた。



9月20日大公開

連日	第1回	第2回	第3回
時間	10:20	2:00	6:00

スーパー・シネラマ・シアター

テアトル東京

銀座一丁目 (562) 5301